

晶文社『吉本隆明全集』連続イベント 第二回

糸井重里×ハルノ宵子 トークイベント

吉本家
長女

「はじめめの吉本隆明」



©ほぼ日刊イトイ新聞



©ハルノ宵子

【日 時】 2017年 **4月15日(土)**

14:00～16:00(開場13:30)

【場 所】 上野寛永寺 輪王殿 第一会場
(JR上野駅 公園口より徒歩8分)

【料 金】 学生:無料(学生証提示)
一般:1000円

【定 員】 約200名(要予約・申込先着順)

【予 約】 晶文社HP内イベント詳細ページより
お申込みください。



←こちらのQRコードからもご予約可能です。

※ハガキでも受付可。その場合、往復ハガキに「4/15吉本全集イベント希望」と明記し、お名前/ご住所/電話番号/年齢をご記入のうえ、裏面の宛先までお送り下さい。

※今回のテーマを考慮し、若い世代のお客さまを優遇させていただきます。ご理解・ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

----- イベント概要 -----

吉本隆明さん(1924～2012)は、大学にも、会社にも、文壇にも属さず、生涯在野で評論活動をつづけた、昭和を代表する思想家です。その膨大な仕事を網羅する『吉本隆明全集』(全38巻・別巻1)の刊行が、2014年からスタートしました。

4年目を迎える今年は、長らく秘蔵とされてきた書簡集の発売(5月予定)をもって、いよいよ第二期刊行が始まります。

その刊行を記念し、豪華ゲストをお招きしてのトークイベントを開催します。

今回のテーマは、「はじめての吉本隆明」です。

吉本さんは、敗戦の衝撃の残る戦後から東日本大震災後に至るまで、じつにさまざまなことを書いたり、発言したりして、熱狂的な共感と反発を生み出してきました。吉本さんの本が、そのように熱心に読まれ、語られてきたのは、なぜなのでしょう。その求心力のヒミツを、吉本さんの人柄を入り口に考えてみよう、というのが今回のイベントの核となります。

お招きするのは、吉本さんと親交が深く「ほぼ日刊イトイ新聞」でなんども対談を重ねてきた糸井重里さん。そして、吉本さんが亡くなるまで自宅で介護をされてきた、長女で漫画家のハルノ宵子さん。誰よりも吉本さんの話を聞いてこられたお二人に、聞いておいてよかったなあと思うことや、聞いておいて助かったことなどを、教えて(おすそ分けして)いただきます。

----- 登壇者について -----

糸井重里(いとい・しげさと)

1948年、群馬県生まれ。ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」主宰。同サイトでは60年代～'08年の吉本さんの講演をできるかぎり集め、デジタルアーカイブ化して無料で公開している。著書多数。吉本さんとの共著に『悪人正機』(新潮社)があるほか、ほぼ日ブックスより『吉本隆明の声と言葉。』『吉本隆明が語る親鸞』を刊行している。

ハルノ宵子(はるの・よいこ)

1957年、東京都生まれ。漫画家・エッセイスト。長年の介護の末、'12年に父と母を相次いで亡くす。妹は小説家の吉本ばなな。現在は定住猫数匹+外猫たちと暮らす。マンガ以外の著書に、『それでも猫はでかけていく』(幻冬舎)、『開店休業』(プレジデント社・吉本さんと共著)などがある。

吉本隆明全集 全38巻・別巻1 好評刊行中

第一期(1～12巻)完結!

稀代の思想家のすべてがここに。

綿密な校訂をほどこした最終決定版!

【本全集の特色】

- ◎書かれたすべての著作を収録し、重要な講演・インタビューの一部を補った。
- ◎思索の過程がすべて迎えられるよう、詩や散文も含めて発表年代順に巻を構成。
- ◎単行本未収録の貴重な評論・エッセイ・推薦文など270余篇を初収録。
- ◎試行出版部創設の頃を中心とする川上春雄宛全書簡150余通を初収録。
- ◎各巻月報は、第一級の執筆陣による書き下ろしエッセイ(各巻2名)。

内容見本進呈中。ご希望の方は下記までご連絡ください。

既刊：第1巻～第12巻
続刊：第37巻 書簡集I (5月予定)

A5変型・上製カバー装 各巻590ページ(平均)
定価：各巻6400円(平均)+税

